

# 公益社団法人春日部法人会会長賞

## 今、生きているのは

白岡市立南中学校 三年

金 井 杏 優

「私が今生きているのは、家族と名前も知らない若い人たちがいるからなんだよ。」祖母は、そう言って話し始めた。

私の祖母は昔に脳内出血をして、その影響で鬱病となり、そして身体が麻痺し、それによって身体のアチコチを骨折している。それに加えて、祖父は目がほとんど見えない状態だ。そのため、私の母は二人を介護している。私もたまに二人の介護の手伝いに行っている。

私は今日も母の二人の介護を手伝おうと祖父母の家へ行き、二人をサポートした。そのとき、祖母が突然話し始めた。「私が今生きているのは、家族と名前も知らない人たちがいるからなんだよ。」私は理解ができなかった。家族はおそらく介護をしてくれている母や元氣を与えてくれる私達孫などのことだろう。名前も知らない人、とは誰のことだろう。そう考えていると祖母は自身ももらっている税金について話し出した。その名も「障害年金」

障害年金は年金と違って、通常二十歳以上の人が一定の障害の状態になった場合に支給されるものだ。祖母は「障害年金、てのは、年金よりも少し多くお金がもらえるんだよ。だけどその中には働いている若い人たちから頂いた

税金が詰まってる。だから私は感謝してる。」と言った。私はこれを聞いて、名前も知らない若い人が誰のことを指しているかを理解した。また、同時に少し考えたことがある。

税金。これは、人々が不満に思いながらも払っている。しかし、そんな税金の行き先は困っている人や苦しんでいる人のところだ。そして、もらった人は感謝の気持ちでいっぱいになる。

この仕組みは一体何なのだろう。少子高齢化によって、大抵若い人が働いて多くの税金を払って、年配の人がもらっているという形が最近出来上がっている。そう考えると、若い人たちもいつかは税金をもらう立場になる。また、私もいつかは税金を払う立場ももらう立場も経験するのだと思った。ということは損も得もしないのではないだろうか。祖母は税金を払ってくれる人に感謝してると言っていたが、祖母はもう税金を払う立場を経験している。だから損も得もしてない。いわば「自分の未来への貯金」だ。働いている若いうちに税金、という形で貯金をして、働かなくなったら少しずつ貯金を崩していく。そう考えれば、税金に不満は抱かないだろう。

これからは、税金とは、「自分の未来への貯金」だと思って過ごしていこうと思う。